

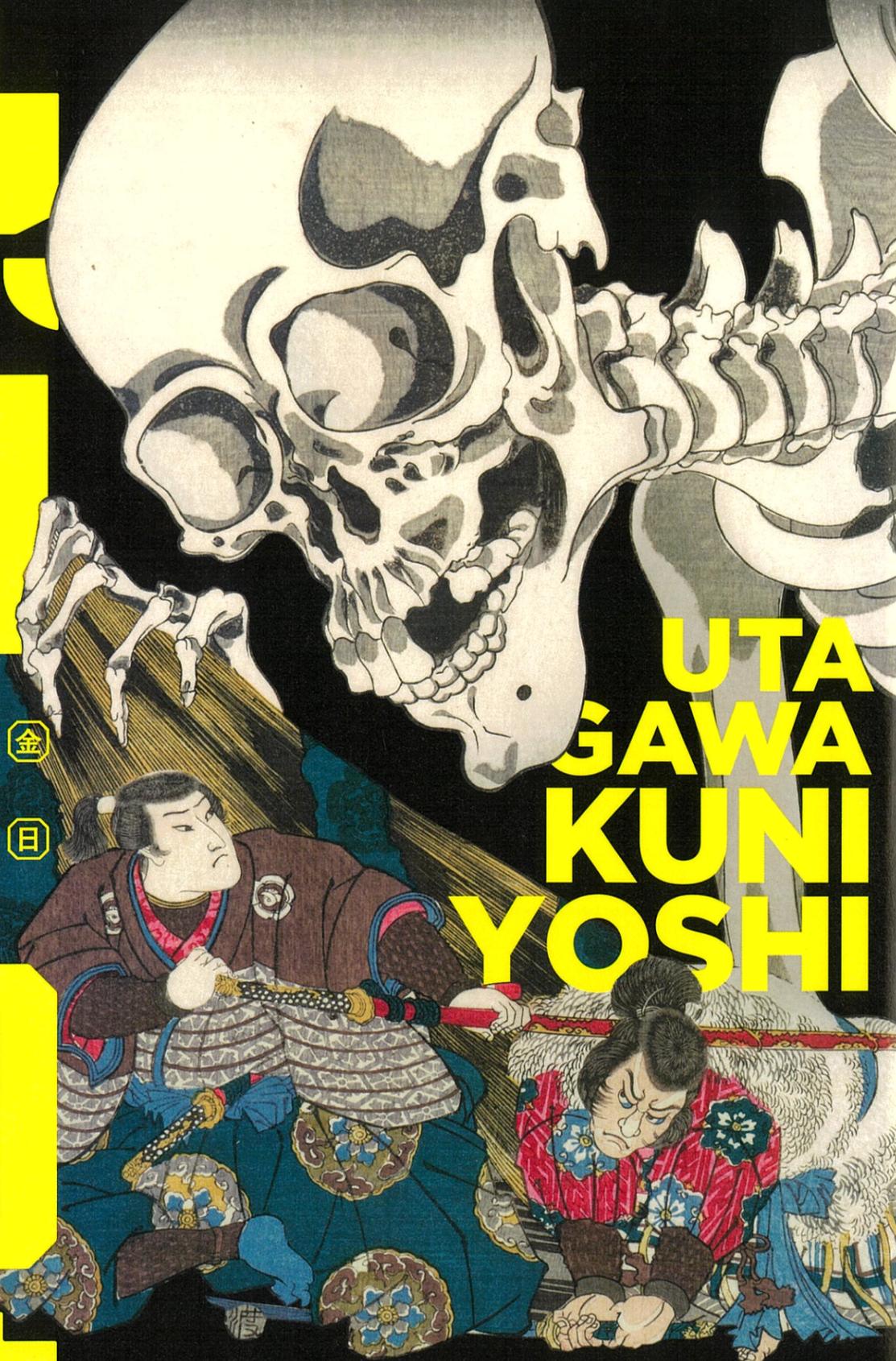
歌川

2026 4/24(金) ▶ 6/21(日)

前期: 4/24(金) ▶ 5/26(日)
後期: 5/26(火) ▶ 6/21(日)

国

芳展



UTA GAWA KUNI YOSHI

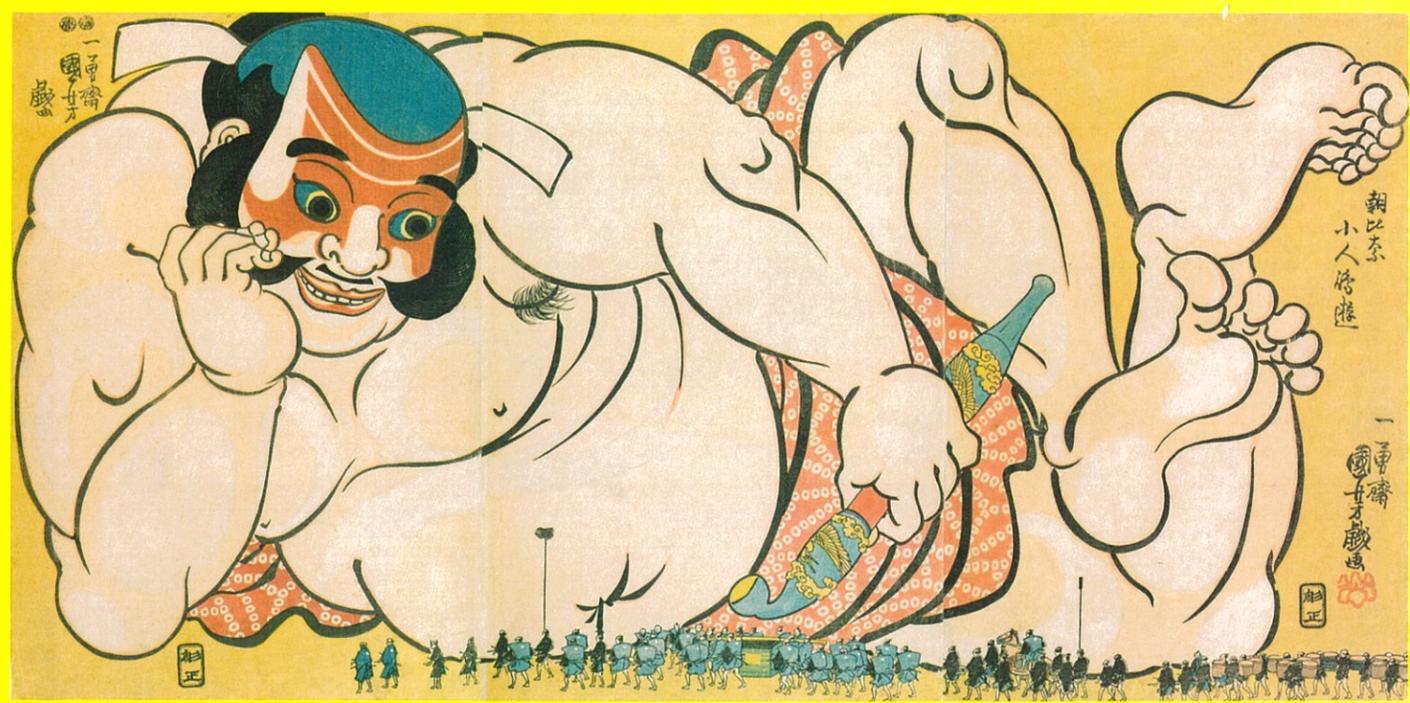
aomoo AIICHI ARTS CENTER

奇才絵師の魔力

開館時間 | 10:00-17:00、金曜日は20:00まで(入館は閉館の30分前まで)
休館日 | 毎週月曜日(ただし5月4日は開館)、5月7日(木)

主催 | 愛知県美術館 読売新聞社 中京テレビ放送
愛知県美術館 [愛知芸術文化センター10階]

(相馬の古内裏)(部分)
弘化2~3年(1845~46)頃
【通期展示】個人蔵



【朝比奈小人鳴遊】弘化4年(1847)【後期展示】

グッズ



	一般	大学生	高校生	中学生以下
前売・団体	1,600円	800円	600円	無料
当日	1,800円	1,000円	800円	無料

観覧料

【購入場所】 ローソンチケット、セブンチケット、チケットぴあ、アソビュー！
主要プレイガイド、愛知県美術館チケット売場
【販売期間】 前売 | 2026年4月23日(木)まで
当日 | 展覧会会期中
※団体料金は20名以上です。
※上記料金で本展覧会中に限りコレクション展もご覧になれます。
※心身に障がいのある方とその付き添いの方(1名)は無料。
入館の際、各種手帳等をご提示ください。
※学生・生徒の方は当日会場で学生証(生徒手帳)をご提示ください。
※複数の割引の併用はできません。
※いかなる理由でも、主催者の責によらないチケットご購入後のキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。

イベント

記念講演会
日時 | 2026年5月2日(土) 13:30-15:00 (13:00開場)
講師 | 浅野秀剛氏(あべのハルカス美術館館長)
神谷浩氏(徳川美術館副館長兼学芸部長)
会場 | アートスペースA(愛知芸術文化センター12階)
定員 | 先着180名
※聴講無料(ただし本展のチケットが必要です) ※事前申込不要

スライドトーク(学芸員による展示説明会)
日時 | 2026年5月16日(土)、5月30日(土)、
6月13日(土) 各回11:00-11:40
6月5日(金) 18:30-19:10
会場 | アートスペースA(愛知芸術文化センター12階)
定員 | 各回先着180名 ※事前申込不要
チケットをお持ちのうえ、開始時刻に会場にお集まりください。
イベントの詳細については、当館ウェブサイトをご覧ください。

音声ガイド

人気声優二人の競演 料金 | 650円(税込)

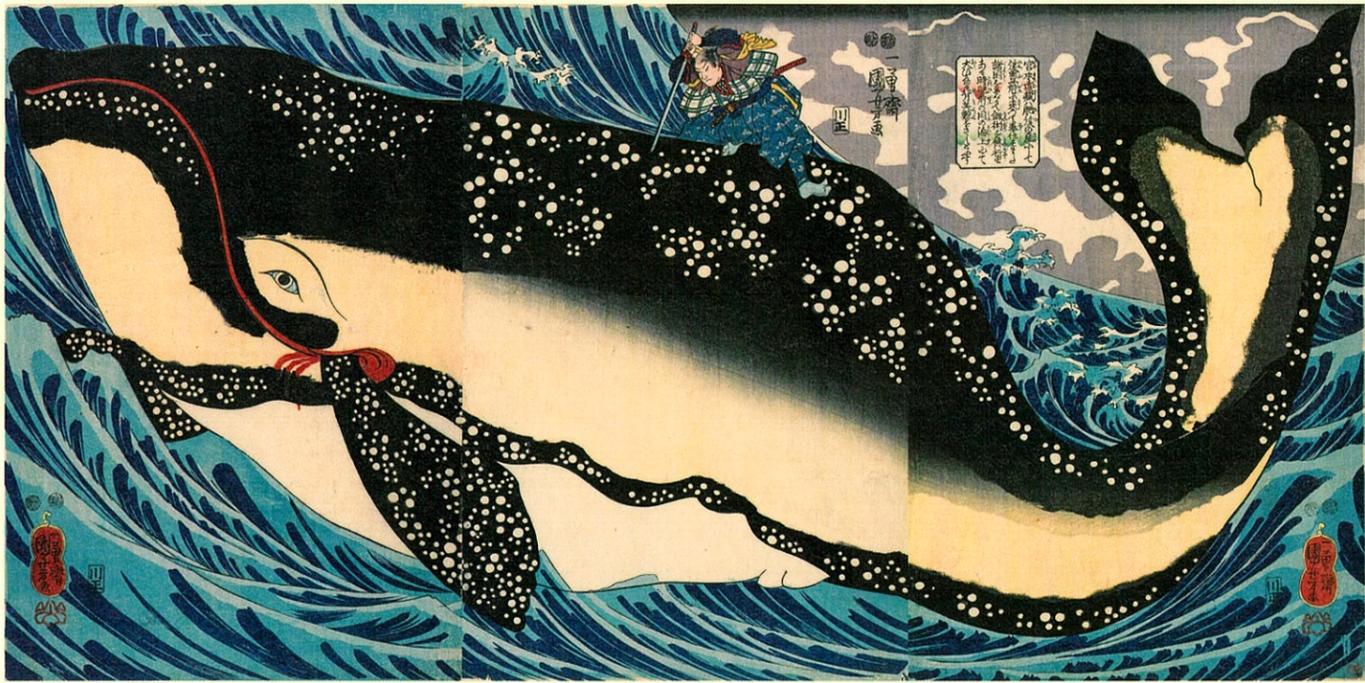
数々の人気アニメで活躍する声優の花江夏樹さん(「鬼滅の刃」竈門炭治郎役ほか)、釘宮理恵さん(「銀魂」神楽役ほか)のナレーションでご案内します。国芳がこよなく愛した「猫」も登場。国芳にまつわるエピソードも織り交ぜながら、作品の見どころを楽しく紹介します。

花江夏樹さん (声優)
釘宮理恵さん (声優)

愛知県美術館

〒461-8525 名古屋市中区東横1-13-2
お問い合わせ | 052-971-5511(代)
地下鉄東山線・名城線「栄」駅/名鉄瀬戸線「栄町」駅下車、オアシス21連絡通路利用徒歩3分
歌川国芳展 愛知





8



1

江戸の アヴァンギャルド!

歌川国芳(1797-1861)は、江戸後期に活躍した浮世絵師の最後の世代に現れました。そして多種多様な国芳の作品は、それまでの浮世絵に無かった斬新な発想に基づき、浮世絵界に新風を吹き込んだのです。力強いポーズをとる英雄を大胆な構図と派手な色使いで描いた武者絵は、異色の魅力を放ち、国芳を一躍人気絵師に押し上げました。豊かな発想力は三枚続きの大きな画面を活かした大胆な武者絵や、西洋画法を取り入れた風景画、市井の女性の日常を捉えた美人画、ウィットに富んだ戯画などに存分に発揮されています。



2

国芳の作品にみられる新奇な表現は、見る者を楽しませる魅力にあふれています。本展では、幅広い画題を手掛けた国芳の武者絵、戯画、美人画、風景画、役者絵に肉筆画も加えた約400件の作品を展示し、国芳の全貌に迫ります。

くじけぬ 絵師根性

長く続いた下積み時代にくじけず筆力を鍛え続けた国芳。「水滸伝」の英雄たちを描いた30代初め、「武者絵の国芳」としてようやく浮世絵界に名を馳せました。そんな不屈の精神で、幕府の禁令もなんのその。天保の改革により役者や遊女を描くことが禁じられても、奔放な発想力で苦境を乗り越えました。

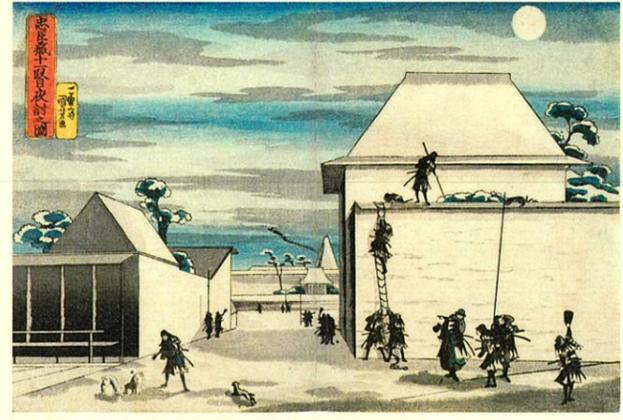


3

- 1 《本朝水滸伝 豪傑八百一人一箇 天龍軍兵衛》(部分) 天保2年(1831)頃 [前期展示]
- 2 《坂田怪童丸》 天保7年(1836)頃 [通期展示]
- 3 《源頼光公館土蜘蛛妖怪団》 天保13-14年(1842-43) [通期展示]

よ 予想外に ぶつとんだ 構図

国芳が切り拓いたダイナミックな三枚続きの手法は、浮世絵の常識を打ち破りました。画面を貫く巨大クジラや巨漢は見る者を圧倒します。この構図力は風景画にも発揮され、西洋絵画の表現を用いながら、独特なアングルから捉えた景色も魅力の一つです。

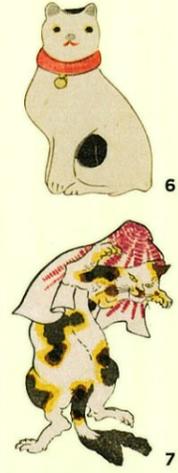


9

- 8 《宮本武蔵の歸郷治》弘化4年(1847)頃 [通期展示]
- 9 《忠臣蔵十一段目夜討之図》天保2-3年(1831-32)頃 [通期展示]

に やんこ 百面相

国芳は無類の猫好きでした。猫を美人の引き立て役としてだけでなく、主役として描き出したところが国芳の新境地。リアルな猫から人間に扮した猫まで、実に表情豊かな猫たちがあちこちに登場します。新発見のおもちや絵《流行猫の変化》もお見逃しなく。



6

7

- 4 《流行猫の変化》天保12-13年(1841-42)頃 [通期展示]
- 5 《山海愛度園会 七ヲいたい 越中滑川大姥》嘉永5年(1852) [前期展示]
- 6 《其ま・地口 猫飼好五十三定》(部分) 嘉永元年(1848)頃 [通期展示]
- 7 《日本駄右エ門猫之古事》(部分) 弘化4年(1847) [後期展示]



4



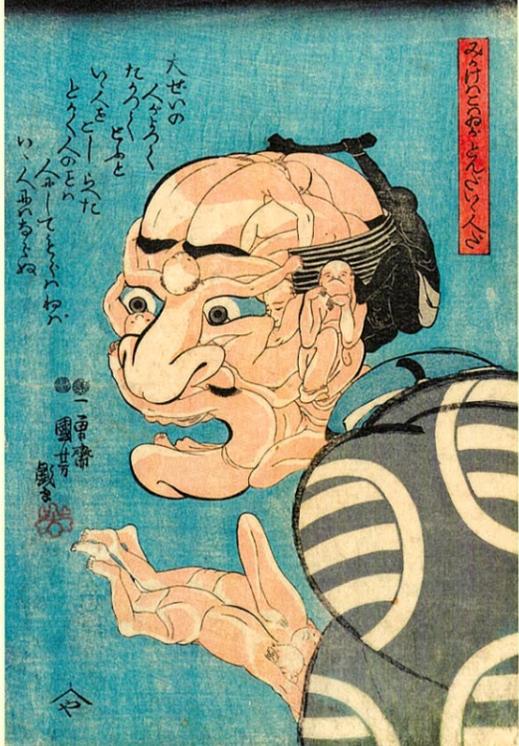
5

し やれをまかせて 笑いを誘う 展

楽しい笑いも機知に富んだ風刺もお手の物。国芳にかれば猫や金魚、狐に狸などの生き物、ひょうたんや化粧道具のような身近な品々に至るまでコミカルに擬人化され、恐ろしい妖怪も愛嬌たっぷり。江戸の人々を笑わせた国芳のアイデアには、令和にも響くユーモアが満載です。



11



10



6

6

6

- 10 《みかけハこハるがとんだい人だ》弘化4年(1847)頃 [前期展示]
- 11 《きん魚づくし ぼんぼん》天保13年(1842)頃 [後期展示]

※作品はすべて個人蔵